

省エネ・地域パートナーシップ 九州ブロック会議

お客様との対話を通じた 地域の脱炭素化の実現に向けて



肥後銀行経営企画部サステナビリティ推進室
室長 坂口 尚

肥後銀行



九州フィナンシャルグループ

九州フィナンシャルグループ

本店所在地（登記住所） **鹿児島市金生町6番6号**

本社所在地（本社機能） **熊本市中央区練兵町1番地**

総資産 **13.2兆円**

設立日 **2015年10月1日**

<地方銀行総資産ランキング>

順位	銀行名	総資産（兆円）
1	ふくおかフィナンシャルグループ	32.2
2	コンコルディアフィナンシャルグループ	24.7
3	千葉銀行	21.6
4	めぶきフィナンシャルグループ	21.4
5	ほくほくフィナンシャルグループ	16.4
6	しずおかフィナンシャルグループ	15.7
7	西日本フィナンシャルホールディングス	13.5
8	八十二銀行	13.5
9	九州フィナンシャルグループ 肥後銀行・鹿児島銀行	13.2
10	山口フィナンシャルグループ	12.9

（2024年度地銀協データより）

肥後銀行

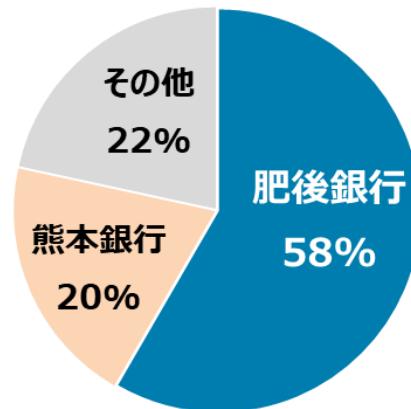
預金 **5.5兆円** 貸出金 **4.7兆円**

拠点数 **126（本支店119、出張所5、海外事務所2）**

従業員数 **2,209人**

自己資本比率 **10.92%**

2024年度熊本県のメインバンク割合



（出所：帝国データバンク資料）

**2025年
100周年!!**



2018年に専門組織を設置。持続可能な社会の実現に向けた取り組みを強化。

SDGs/
ESG



2018年10月専門部署設置



Kyushu FG

九州フィナンシャルグループ

サステナビリティ統括室



HigoBank

肥後銀行

サステナビリティ推進室



Kagoshima Bank

鹿児島銀行

サステナビリティ推進室

15名態勢

グループの目指す姿



好循環サイクルを実現



地域・お客様・グループの持続可能性向上

私達の存在意義（＝パーパス）

私たちは、お客様や地域の皆様とともに、
お客様の資産や事業、地域の産業や自然・文化を
育て、守り、引き継ぐことで、
地域の未来を創造していく為に存在しています

2030年
ビジョン

お客様、地域、社員とともに、より良い未来を創造する
『**地域価値共創グループ**』への進化

「**金融**」という言葉をあえて取ることで、金融の枠を超えあらゆる
可能性を追求し、地域課題解決に資するグループを目指す

事業領域の拡大

お客様、地域のサステナビリティ・脱炭素支援
(SDGs/CNコンサルティング、可視化システム開発)



SDGsに積極的な企業の割合
熊本県 全国1位
(2024年帝国データバンク調査)

自然資本を活用した取り組み

- ✓ 熊本県林業公社と連携した森林クレジット流通支援
- ✓ 産官学金連携によるアマモ場の再生とブルークレジットの創出

※環境教育の取り組みも実施



カーボンニュートラルと
ネイチャーポジティブの
両方に寄与

サステナブルファイナンスの推進 サステナブル関連預金商品の拡充

- ✓ サステナビリティ・リンク・ローンやポジティブ・インパクト・ファイナンスなど、地域課題解決に資するファイナンスを推進
- ✓ グリーン預金、ポジティブインパクト預金も開始

サステナブルファイナンス累計実行額 約800億円
預金関連商品も早期に募集上限到達

「SDGs教育」の取り組み

- ✓ SDGsをテーマとした教育施設「くまもとSDGsミライパーク」をオープン（金融機関の運営は全国初）



地域の未来づくりへ
向けた新たな挑戦

主体的行動により
チャンスを「恵み」へ

ビジネスモデルの
見直し・高度化

金融

預金、貸金、為替
コンサルティング

サステナビリティ推進の取り組み

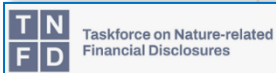
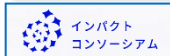
肥後銀行

KFG

HigoBank

グローバル

国内

イニシアティブ等	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	～2030年
 SDGs	2018年10月 専門部署設置	2019年7月 投融资指針	2020年7月 ESG投融资目標	2021年12月 サステナブル投融资方針 人権方針	2022年1月		
	2019年2月 サステナビリティ宣言 全体構想	2020年3月 グリーン購入方針	2021年4月 サステナビリティ推進 委員会	2021年6月 ESG投融资目標、 マテリアリティ制定		2023年下期 マテリアリティ見直し	2025年10月 サステナビリティアドバイザリーボード設置
 TCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース)		2019年6月 KFG賛同 (地銀2例目)	2020年7月 CO2 排出量算定 (スコープ3開示)	2021年7月 シナリオ分析結果、 CO2排出量目標	2022年6月 PCAF加盟 (投融资先排出量算定)	2023年3月 カーボンニュートラル宣言 (2030年)	
			2021年1月 環境方針制定	2021年12月 カーボンニュートラル宣言 (2050年)			
 TNFD (自然関連財務情報開示タスクフォース)				2022年4月 JBIB加入	2022年8月 TNFDフォーラム加入	2024年1月 KFGアーリーアダプター	
 GXリーグ						2023年4月 KFG加入	
 30by30						2023年5月	加入
インパクト志向金融宣言 Japan Impact-driven Financing Initiative	インパクト志向金融宣言 (4社 : 肥後銀行、年金基金、肥銀キャピタル、KMIC)					2023年8月	署名
 インパクト コンソーシアム	インパクトコンソーシアム					2024年1月	申込
省エネ・地域パートナーシップ	省エネ・地域パートナーシップ					2024年9月	参画

- 2019年12月 **熊本県**：「2050年熊本県内CO₂排出実質ゼロ」宣言
- 2020年10月 **政府**：首相所信表明演説「2050年カーボンニュートラル」宣言

2021年12月：2050年度までにカーボンニュートラル

目標の
前倒し

KFGカーボンニュートラル宣言（2023年3月公表）

温室効果ガス排出量の内、

Scope 1・2について、2030年度までにカーボンニュートラル達成

※Scope1：直接排出量（ガソリン、重油、ガス）、Scope2：間接排出量（電気）

投融資先の排出量削減も課題（Scope3 Cat15）

2020年4月～

SDGsコンサルティング



SDGsコンサル

企業のサステナビリティ方針やアクションプランの策定、熊本県SDGs登録制度への登録を支援

カーボンニュートラルコンサル

サプライチェーンCO₂排出量算定、目標設定、削減活動の具体的支援

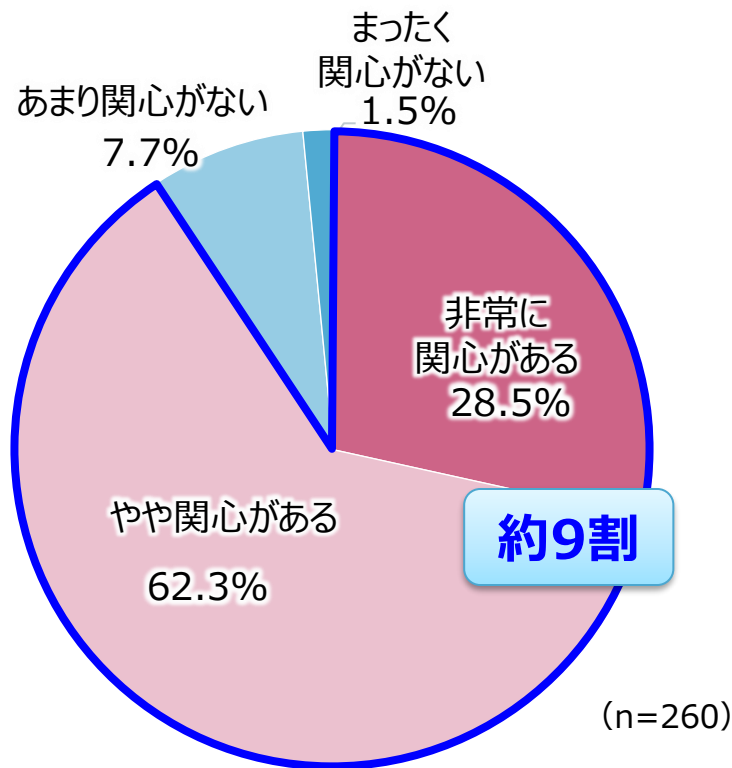
コンサルを通じた気づき

- 気候変動、地球温暖化対策としてカーボンニュートラル実現に向けた取り組みは不可欠
- 一方で**ノウハウやマンパワーの観点から**自社のCO₂排出量把握について**進んでいない**
- **既存の可視化システム利用料が高額**であり、ユーザーにとって導入のハードルが高い
(特に中小企業)

**低価格で操作性に優れる可視化システムを独自開発・提供し、
地域・お客様のカーボンニュートラルの意識醸成と、脱炭素化支援へ挑戦**

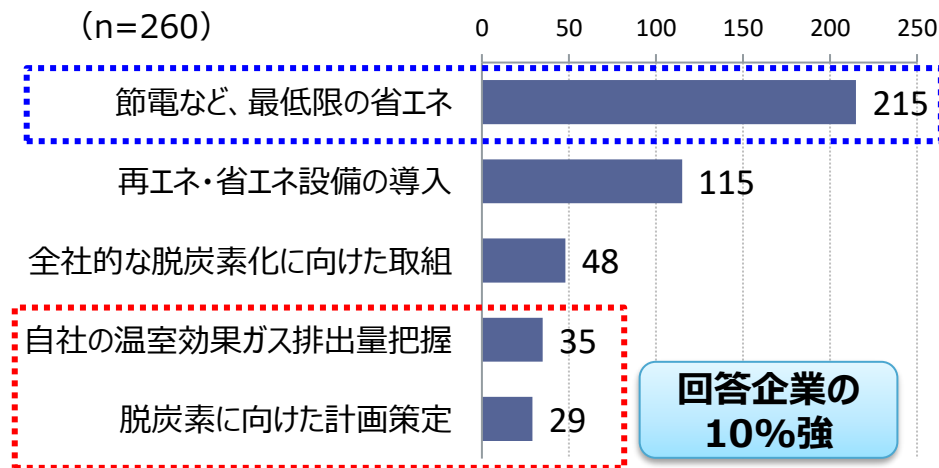
脱炭素への関心度

➤ 回答企業のうち、**約9割**が脱炭素に関心ありと回答。



脱炭素取組の実践状況

➤ 節電などに取り組む企業は多いが、**自社排出量の把握、計画の策定**についてはまだまだ進んでいない。



【脱炭素取組を実践する上での課題（抜粋）】

- 「人的余裕がない（44%）」
- 「本業が忙しく、手が回らない（35%）」
- 「エネルギー使用量の把握に手間がかかる（32%）」



● 炭削くんの機能

電気、エネルギー等の各種使用量データをシステムに入力

- ① 企業活動全体のCO₂排出量算定※（Scope1,2,3）および可視化
- ② 排出量削減目標の設定及び進捗管理
- ③ 算定結果のレポート出力

※算定方法については第三者認証を取得



システム 利用料金

ご利用開始から1年間は**無料！**

2年目以降
月額 **2,200** (税込) 円～

※ご利用ユーザー数により異なります

追加料金なしで
**Scope3まで
算定可能**

**拠点登録
無制限**

**サプライチェーン全体の
排出量管理**

～全国のカーボンニュートラル実現に向けて～

複数の金融機関、事業会社と連携

【企業の導入状況】

累計導入企業数

4,576件

(2025年9月30日時点)

【金融機関の導入状況】

**鹿児島銀行、福岡銀行
東北銀行、筑波銀行など**

【事業会社との連携】

**三井住友海上火災保険
アスエネ、ココペリ 他**



脱炭素経営に取り組む意義を

“知る”

- セミナー等への参加
- 環境関連サイト等を活用した情報収集

自社のCO₂排出量を

“測る”

- 自社およびサプライチェーン全体の排出量の計測・把握

目標達成に向けて

“減らす”

- 削減計画、目標の策定
- 達成に向けたビジネスマッチングや資金調達のご支援



社内外に取り組み状況を

“発信する”

- 会社HPでの情報開示のご支援
- 当行HP等でのご紹介
- 脱炭素関連の社内勉強会実施

カーボニュートラルコンサルティング

- セミナー、勉強会の企画・開催
- 脱炭素関連情報の提供・発信

算定



- サステナブルファイナンスのご提案
- ビジネスマッチング先の紹介
- 事業会社との連携による削減支援

レポート



SDGs TV

知ることからはじめよう！
～ひとりの100歩より100人の1歩～

第1回 サステナビリティ入門

Kyushu FG

銀行と気候変動問題

～お客さまと進める気候変動対応～

2024年11月28日

2024年11月29日

肥後銀行・熊本県共催

脱炭素経営セミナー 2025

脱炭素経営とは、気候変動のリスクを回避し、事業の持続可能性を高めるための経営戦略です。
脱炭素経営とは、気候変動のリスクを回避し、事業の持続可能性を高めるための経営戦略です。

参加無料

2025

メニューについて

脱炭素化が加速

脱炭素化を推進
**負め、Scope3の脱炭素化を進めている
 から除外される恐れもある**
cope1.2)は、他の企業のScope3 です！

肥後銀行 経営企画部サステナビリティ推進室

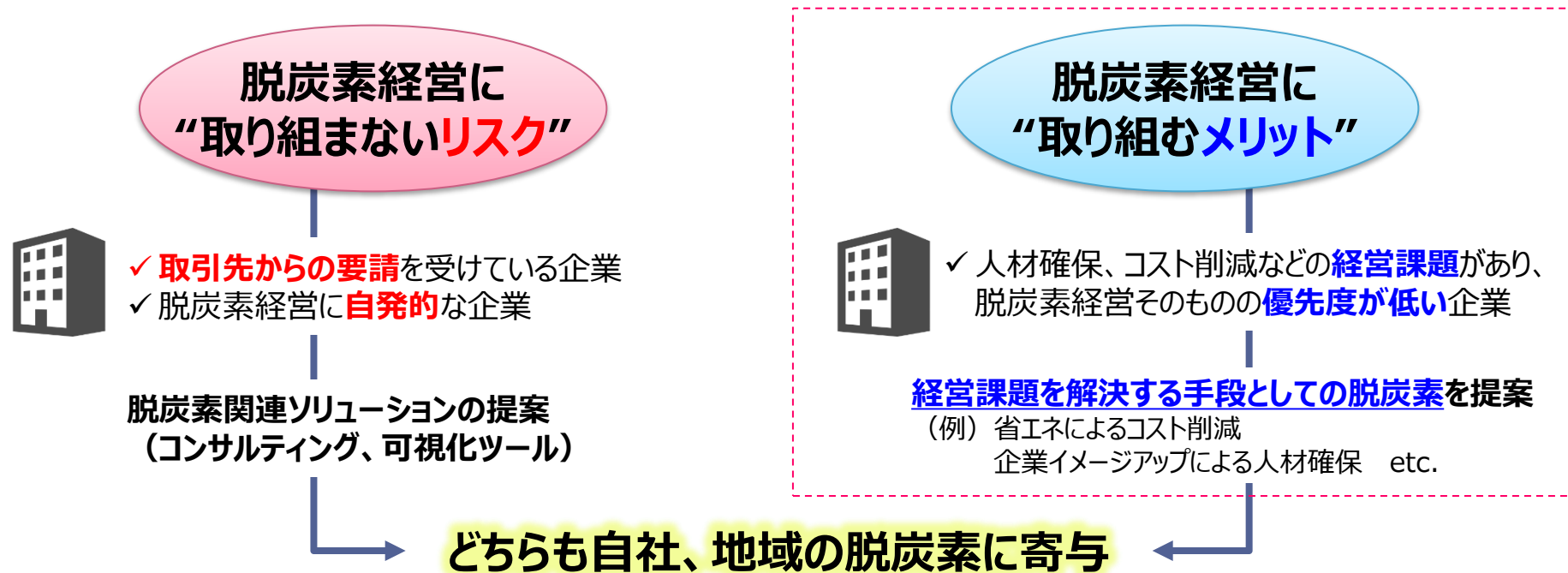
肥後銀行
九尾フナシステムグループ

脱炭素経営とは、まず自社の環境パフォーマンスを把握し、その上で、Scope1、2の脱炭素化を進め、Scope3の脱炭素化を進め、事業活動全体で脱炭素化を実現することです。

国内大手のサプライチェーン脱炭素化要諦

下流	企業	セクター	内容
Scope3	電気・ガス	住宅	「サプライチェーンのCO2削減率」の脱炭素化目標を設定し、電気・ガスの削減率を向上させること。
Scope3	電気・ガス	住宅	「サプライチェーンのCO2削減率」の脱炭素化目標を設定し、電気・ガスの削減率を向上させること。
Scope3	電気・ガス	住宅	「サプライチェーンのCO2削減率」の脱炭素化目標を設定し、電気・ガスの削減率を向上させること。

～企業によって脱炭素経営に取り組む動機付け・アプローチは様々～



課題

経営課題を切り口にした対話力向上（人材育成）
省エネ関連支援メニューの拡充（省エネ診断、省エネ補助金の活用支援等）



一気通貫での支援を通じ
お客様・地域の
カーボンニュートラル実現を目指す

- ✓ 脱炭素関連ソリューションの提供
(可視化ツール、CNコンサルティング)

- ✓ 各種サステナブルファイナンスの提供

脱炭素経営の動機づけを強化

- ✓ 省エネ・地域パートナーシップの枠組みを活用し、支援機関と連携した**支援メニューの拡充**
(省エネ診断、補助金活用支援)
- ✓ その他**ステークホルダーとの連携**
(自治体、金融機関同士の連携 (Q-BASS))
- ✓ 行員の対話力向上に向けた**人材育成**

中小企業向けファイナンス（第三者評価取得）

【ひざんカーボンニュートラル・リンク・ローン（11/1～）】

- ✓ 従来のサステナビリティ・リンク・ローンにおける**各種費用の負担感を軽減**すべく、フレームワーク型の商品
- ✓ 以下の要件を満たした場合、**金利優遇を適用**
 - ①CO₂排出量削減目標（年▲4.2%）の達成
 - ②基準年度、算定年度のCO₂排出量の算定
 - ③熊本県事業活動温暖化計画書制度への対応

以 上